會社の回答案は本日午前十一時

雨か晴か藤永田の爭議

藤永田造船所の爭議につき職工側第二交渉委員は夕刊所報の如く加々美高等課長の調停案を携へて歸津に歸り他の委員等こ鳩首協議したところ委員側では此案に大體賛同の意があつたが一般職工間では「團體交渉權もさる事ながら第二項以下も絶對に讓歩し難し」とあつて讓らず茲に於て交渉委員は板挾みこなつて辭職の風評すら立つたそれで委員は午後六時加々美氏を再度官邸に訪問したが遂に何等得る處なく引上げた

斯くして七日午後三時の會社側この會見は日延べこなり正式に八日十一時に會見する事に決定した而して加々美氏は夜に入り永田氏に電話する處あり午後八時半永田三十郎、同三四郎、前野芳造、武智技師長等は自動車を驅つて加々美特高課長を官舍に訪ひ三時間餘密議を重ねた後一同は辭去した、その際前野氏は

單に第二實行委員が課長に回答したその内容を伺つた次第で明日再び右回答の内容を基礎に會社案を作成して八日午前十一時前後に再度回答案を右實行委員に交附する筈で多分圓滿な解決を結びませうこれ以上會社の讓歩は困難です

こ內容を語るを避けたが、大體は賀川豐彥氏の先の仲裁案を基準に捻出するらしい、即ち解雇手當を幾分増加するこ共に團體交渉權についても熟議を要するが兎に角何等かの形式で現はるゝもの如く思はれる、此案は第三交渉委員の要求こ略一致し、容易に解決を見る筈だが第一回の交渉委員が既に放逐さるゝ今日此案も或は職工側の容るゝところこならず再び交渉斷絶を見ぬこも限らぬ、會社側では萬一此案で破れなば餘儀なく成行に任す摸様も見ゐる、それか

友愛會前に貼紙

藤永田に策應せんこする友愛系八千の職工

藤永田爭議に關し關西勞働同盟會が一齊に結束して起ち徹底的に應援する旨決議し既に目的貫徹の手段こして全市友愛會系職工八千名

あらぬか特別高等課では市內全署に再び八日朝大動員を命令した

物々しい警戒裡に

爭議批判演說會

友愛會主催の藤永田爭議批判演說會は七日午後七時から大阪市南區下寺町大蓮寺境內で開かれた、五時頃から續々詰掛けた勞働者は藤永田職工二千名の外友愛會其他の會員をも加へて三千五百名、島友愛會大阪聯合會長の開會の辭に次いで藤永田實行委員が經過報告をやり造船工、機械工、友愛會、友禪工等交々登壇資本家呪咀、官憲壓迫を絶叫し最後に松岡友愛會東京本部理事に依つて閉會した、萬一を氣遣ふた警察側では所轄高津署を始め、天王寺、戎、玉造、本部等から一千名の警官を繰出し蟻の這ひ出す隙も無い程物々しく堅めたが午後九時半迄に平穩に解散した

の同情罷業が目論まれつゝあつたが七日午後三時友愛會支部前には「關西友愛會員の總動員！大阪全市の勞働者は同情總同盟罷業を敢行せんこす」この大ビラが貼り出された而して同情罷業團の要求は只一つ「團體交渉權を確認せよ」こ詰寄るべく藤永田以外の造船工こ大日本勞働總同盟に關係を有つ市內五六の會社の職工約八千名がこれに策應するかも測り知れぬ形勢である關西勞働同盟會幹事は語る

已に同盟會として一齊に起立した以上徹底的に戰はねばならぬ目的貫徹の手段としては先づ同情罷業の擧に出る事が當の得たるものだと思ふ、然しコレは職工各自の意志に訴へる外他から強ひる事は出來ない

『實現したら重大事だ』

鈴木文治氏談

關西勞働同盟の結束に就き鈴木文治氏は語る

藤永田の爭議に對し東京の本部からは既に松岡氏が出張して居るが私の所へはまだそんな風の通知はない、現在關西勞働同盟會員は全部で六千人許りであるが直接同會社に關係のない彼等の全部が萬一同情罷業に出るやうなことがあれば日本の勞働運動史最初の重大事だ、事態斯く紛糾するに至つたのは資本家側の頑迷固陋も勿論其因を爲して居るが從來組合に勞働者に同情を有つて居た警察が今度は故なくして罷業部をドンドン檢擧する爲め勞働者は指導者を失つて足頭が揃はなくなり資本家は益威張ると云ふ譯で現に此警察に對する交渉委員が第十段迄つてあるなども之亦日本勞働運動史あつて初めての事だが、是れは從來警察が勞働者に味方をした事が資本家などの批難を受けた爲め所謂羮に懲りて膾を吹くに至つたのでなからうかとも思ふが十年前の勞働者なら知らず今日の樣に階級知識の確なる勞働者に對して斯んな態度に出るのは徒らに事態を擴大し紛糾せしめるのみで効はない

こ長大息して『斯うなつては私もじつこして居れない電報の着次第早速下阪する』こ早々出動準備に取掛つた（東京電話）

當局の方針

加々美課長の談

藤永田に對する當局の態度こ大電爭議に臨んだ取締方針に相違な點、大電に寛で藤永田に嚴だこいふ事は絶對になく、取締方針は確立不變である、が、只大電は公共的事業、藤永田は營利事業だこいふ見解に幾分の手心はあつた、然しそれを直ちに寛嚴に云爲されるのは迷惑至極だ、今回の藤永田爭議に就いて友愛會が總動員云々の揭示をしたこの事は耳にしたが決して不穩な擧に出づる譯はあるまい、此爭議に就いて同情的罷業を敢行するため不穩な宣傳ビラ又は煽動的な行爲に出づる者については何人こいへども產業の平和を保持するために斷乎たる處置を取るここは勿論で、當局こしては機に臨み變に應ずるだけの對策はチヤンこ出來上つてゐるたゞ當局こしては飽迄も圓滿な解決を告げしめたい爲めに最善の努力を拂つてゐる

油谷製作所 罷工繼續中

の大阪市北區西野田吉野東之町油谷製作所職工は第一回要求書の主要條件を體よく拒絶されたので協議の上七日朝更に

一、勞働時間を八時間制こする事

二、會社の都合に依る解雇者には解雇手當こして三箇月以上一年未滿勤續者に日給の七十日分を支給し右以上は一箇月を增す毎に日給五日分宛を增す事

の二箇條を再び要求したが會社側は一たまりも無く拒絶したので愈持久戰に移る肚を固めた

增田伸銅の其後 大阪

市北區中之島玉江町株式會社增田伸銅所の職工二百五十名は種々協議の上七日午後新らしく次の要求案を作成して淸水末吉他四名の實行委員が會社側に迫つた。

一、八時間制實施

二、日給一圓五十錢以下の者は五割增、一圓五十錢以上の者は四割增、但し步合は從前通り

三、解雇手當、一年未滿六十日、一年以上は一箇月每に五日分を支給の事

四、歸國手當こして妻帶者六十圓獨身者四十圓

五、犧牲者を出さゞる事

然るに會社側は職工一同を既に六日解雇したから交渉の餘地なしとて斷乎として拒絶し、午後三時よりは池內、吉村、西井、東の四職工長を招集し警察側立會の上秘密裡に何事かを協議した、一方職工側は全部友愛會に加盟して七日午後浴洲町大正所で友愛會玉江支部の發會式を擧げ本部より島、藤岡、妹尾、西阪の四氏來援して盛んに激勵演說をやつた